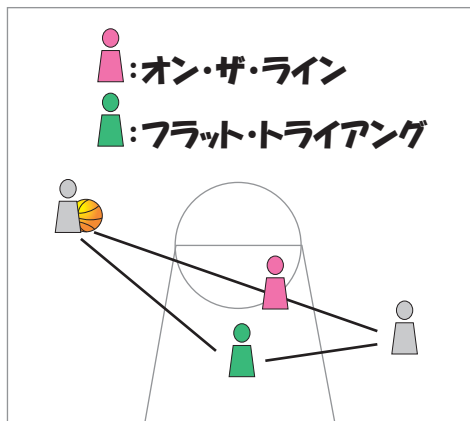


# オン・ザ・ライン、アッフ・ザ・ライン

ボックス理論をプレーするためには、インボールマンをいかにディフェンスするかが鍵になります。この「ボールを持たせない」プレーをするときに理解しておかなければならない考え方は、「オンザライン、アッフザライン」です。これはボールを持っていないプレーヤーに対するディフェンスのポジショニングを表現しています。

ボールを持っていないプレーヤーに対してディフェンスするときには、まず自分のマッチアップマンとボールマンを結んだ直線を想定し、その線の上にポジションをとります。



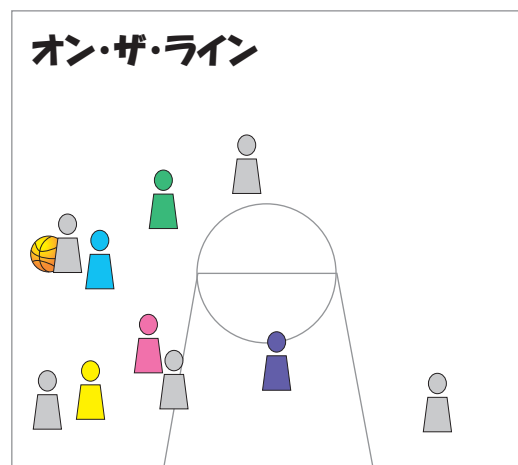
ボールを持っていないプレーヤーにマッチアップするときには、ボールマンと自分のマークマンを視野に入れ、その両者を指で指しているディフェンスの姿勢をとります。

その姿勢を「ピストル・ポジション」といいます。

ピストルポジションの時には腰を浮かしがちになりますが、腰を浮かさずに正しい姿勢を維持しなければなりません。常に膝を曲げていればすぐに動き出す準備にもなります。いつでも動き出せる姿勢をとっておくことはあらゆるスポーツの基本です。

## オン・ザ・ライン、アッフ・ザ・ラインの利点(攻撃的)

- オフェンスの視界を狭くすることができる。  
オフェンスの視界を狭くすることができれば、TurnOverを誘発するチャンスが増えることになり、ディフェンスとしては望ましい状態になります。
- スキップパスをさせることができる。  
ボールマンは、ディフェンスがタイトなため、近くにパスを出せる味方が見つけにくくなります。そこで遠くの味方へのスキップパスを選択すれば、そのパスは比較的インターセプトしやすいものになります。
- ハーフコートの場合もフルコートの場合も、このポジションからだとトラップを仕掛けやすくなります。



## フラット・トライアングルの場合の利点(守備的)

- ボールマンに対して意識を集中しやすく、ドライブに対するヘルプがしやすい  
首を振らなくてもボールマンとマッチアップマンを同時に視界に入れやすいので、ボールマンに集中しやすい。
- バックカットをされにくい。  
オンザラインよりもゴールよりにポジションをとるのでゴールに対するフラインドカットを防ぎやすい。
- スキップパスをされにくい  
スキップパスはカットしやすい反面、通ってしまうとディフェンスにとって不利なことが多い。オフェンスにとってもディフェンスにとってもギャンブル的要素が強い。

